

福井の幕末明治 歴史秘話

<第33号>

おおとり せつそう 平成29年12月12日発行

“表の小楠、裏の雪爪”と称された春嶽の禅師、鴻雪爪！

福井藩初代藩主、結城秀康の最初の菩提寺として知られる孝顕寺（こうけんじ）。今回は、幕末に、この寺の住職を務めた名僧、鴻雪爪を取り上げます。



鴻雪爪
(方外功臣鴻雪爪より)

雪爪は、文化11（1814）年1月1日、備後国（広島県）因島に生まれました。6歳で出家。その後、府中（越前市）の竜泉寺等で修業し、弘化3（1846）年、33歳で、大垣の全昌寺の住職となりました。その名声は全国的に高く、“老人では宇治興聖寺の回天、若手では大垣全昌寺の雪爪”と言われたといひます。

安政5（1858）年、雪爪は、福井藩主、松平春嶽の要請に応じ、45歳で、福井城下の孝顕寺の住職となります。当時、福井藩は、春嶽主導の藩政改革を積極的に進めており、雪爪が入山した翌月には、熊本から横井小楠が政治顧問として迎えられました。雪爪は、藩政改革に協力し、家老、本多修理をはじめ中根雪江、三岡八郎（後の由利公正）らと盛んに論じあい、彼らを啓発したといひます。

雪爪は回想の中で、“考え方が古く、新しいものを受け入れない頑固な者も多かった。小楠は表面より勤めて説き入り、私は陰に裏面より薫陶した”と述べています。春嶽は小楠に藩政改革を託し、雪爪は裏方として支えていたのです。この連携は続き、春嶽の政事総裁職時代には、小楠が春嶽のブレーンとして表から、雪爪が文通や藩の要人を通じて、陰から助言を行ったといわれています。

文久3（1863）年3月、春嶽は政事総裁職を辞し、福井へ戻ります。春嶽は、しばしば雪爪を訪ね、禅の指導を受けたといひます。参禅の問答の中で、春嶽は、“仰げばいよいよ高く、鑽（き）ればいよいよ堅し”（物事の本質は、それに実際に触れなければ分からない）と気付いたと伝わっています。慶応3（1867）年12月、王政復古の直後に新政府と旧幕府側が対峙した際、春嶽は衝突回避のため沈着・果断に動きますが、これは、まさに雪爪から禅の奥義を会得していたから為せたのではないのでしょうか。

雪爪は、約10年間、福井に滞在した後、近江彦根の清涼寺住職となります。その後も春嶽との繋がりは続き、春嶽の推挙で、明治新政府に出仕しました。大教院（神仏合同布教機関）の初代院長として、神道、仏教を国教と定めるなど宗教界の改革事業に尽力します。多くの人材を抜擢してきた春嶽。雪爪もまた春嶽に見出され、表舞台に立ち、活躍した一人なのです。

<参考資料> 方外功臣鴻雪爪（澤井常四郎著）、幕末維新と松平春嶽（三上一夫著）、福井人物風土記（福井新聞社編）

～幕末ふくい歴史紀行～ [孝顕寺]

・藩祖結城秀康の菩提寺として、慶長6(1601)年に建立された孝顕寺。雪爪が住職を務めていた時には、由利公正や堤正誼(まさよし)、松平正直など明治に入っても活躍した優秀な人物が、しばしば山門をくぐったということです。

【住所】福井市足羽1丁目7-16（福井鉄道福武線 足羽山公園口駅から徒歩5分）



孝顕寺

★お知らせ 子どもミュージカル「三國湊 夢をつなぐエッセル突堤」を開催！

- ・坂井市みくに市民センターみくに未来ホールで開催(平成29年12月16日(土)19:00～、17日(日)14:00～)
- ・三國湊に流れ込む土砂で悩む地元住民が、オランダ人技師エッセルと協力して難工事に挑む姿を、坂井市の市民劇団「虹の会」が熱演します。5歳～中学1年生の伸び伸びとした歌声と元気な踊りを堪能ください。

【住所】坂井市三国町神明1-4-20(えちぜん鉄道三国芦原線三国駅より徒歩5分) 【申込・問合せ先】090-8704-7063

(発行者)福井県 (問合せ先)福井県観光営業部ブランド営業課 山田、前田 ☎ 0776-20-0762